ゴミ・水問題を考えるの巻

熊本の水は大丈夫？ 増え続けてるゴミはどう処理されるの？

「くまもと女性特派員」の皆さんの最も気になることに、環境問題が真っ先に上がりました。環境問題は県民みんなにとっても関心事です。今回は、県が小学生に対して行っている啓発事業の一つ「水の学校」と、ゴミ減量に奔走するボランティアグループ「人吉市ゴミ減量隊」を宮尾裕子さん（玉名郡横島町）と永江明美さん（人吉市）にリポートしていただきます。

県職員が"水の学校"の先生です

工夫を凝らした授業に、子どもたちは熱心に聞き入っています

「熊本市の川と鹿央町の川。どっちが汚れているかな？」宮尾さん（左）永江さん（右）

●子どもと一緒に水の勉強
"水の学校"を参観して

山々の緑に包まれ、うぐいすの声が時おり聞こえてくる鹿央町立米野岳（めのたけ）小学校（浦邊虎勝校長）。三・四年生の児童四十四名のとびきり元気のいい「こんにちは」で"水の学校"が始まりました。

"水の学校"は、小学生の「水を大切にしよう」という意識を高めるための県の事業の一つ。県環境保全課水保全対策室の職員が小学校に出向き、水についてのお話をします。

テーマは"くまもとの水について知り、水となかよくなろう"。「どんな時に水を使う？」「一人で一日に使う水の量は？」などの質問に、子どもたちは引き込まれていきます。かわいいカッパが説明してくれるビデオやイラスト、学校近くの川と熊本市内の川の水の汚れを調べる実験などなど、熱心に聞いています。

最後に、「水を溜めての手洗い」や「米のとぎ汁を植木に掛ける」など、心に残った注意を思い思いに書きとめ、水を守るための約束をしました。ある生徒に「家で水を守っていますか？」と質問すると、「お母さんと廃油で石けん作りをしています」と答えてくれました。

環境教育は、家庭と学校で行われなければなりません。水を守るために、蛇口の向こうで多くの人が支えている。自分が汚した水やムダにした水がみんなに迷惑をかけている。―環境教育は大きな思いやりと責任感を育てます。

"水の学校"は小学校からの申し込みで巡回します。今年度は十五校を回る予定とのこと。

熊本の水は守らなければ残せないという状況をよく理解し、環境に責任を持てる人づくり。"水の学校"をきっかけとして、環境教育が家庭で学校で広がっていくことを期待しています。

（玉名郡横島町　宮尾裕子）

段ボール箱の解体って、けっこう重労働です（宮尾さん）

「ゴミの減量化にご協力くださ～い」（永江さん）

●一人ひとりがやればできるゴミ減量
"人吉市ゴミ減量隊"に学ぶ

緑多く、清流・球磨川が流れる人吉。しかし、私たちが訪れた共同ゴミ処理場は、そのイメージとは反対に、悪臭が漂い、その膨大なゴミの量にはびっくりしてしまいました。そこで、私たちを迎えてくれたのは、「人吉市ゴミ減量隊」と大きく書かれた帽子とシャツを着た方々でした。

"人吉市ゴミ減量隊"は、市環境課の公募に集まった二十名の市民団体です。市民のアイデアと行動力を生かしたゴミの減量化に取り組もうと結成されました。これまで、リサイクルを呼び掛けるチラシの配布やゴミに関するアンケート調査などを行っています。この日も、ゴミ減量を促すためのチラシを配りに来られていたのです。

人吉市ゴミ減量隊の皆さんと

私たちも早速、減量隊の仲間に加わりました。事業所から出たゴミを運んで来た方々に、減量を呼び掛ける文書を渡すのと、リサイクルできる段ボール箱の解体作業です。隣では、ゴミが段ボール箱に入って運ばれてきます。

「あっ、あの箱もリサイクルできるのに！」と、燃やされる箱にも未練が出てしまいます。

人吉市でも、生ゴミ処理容器や簡易焼却炉購入に対する助成金制度を設けたり、ゴミ回収作業を紙、金属、布類に細かく分けて回収する「資源の日」を設けるなど、ゴミに対する意識向上を図っています。そうした市のゴミ対策や"人吉市ゴミ減量隊"の活動のおかげで、平成五年度は、前年度に比べ六・三六％の減量に成功したそうです。

しかし、この成果は一般家庭のゴミの減量によるもので、事業所からのゴミはやはり増加傾向にあります。事業所から出るゴミのほとんどはリサイクルできるのだそうです。事業所のゴミの減量も、その事業主と雇用者全員が意識すればできることだと思います。

今回の体験を通し、私達は生活環境をよりよくするために、一人ひとりが努力しなければならないと思いました。

（人吉市　永江明美）